

関連項目：教育活動プラン⑤

## 児童主体の取り組みによるあいさつの活性化

### 目的

本校では、数年来、いろいろな取り組みをしてきたが、あいさつが定着しないという課題があった。そこで、教師からの働きかけだけでなく、児童に「あいさつの輪を広げるためにはどうすればよいか？」ということを考えさせ、児童主体にあいさつ運動に取り組むことにした。

### 内容

#### ● 「あいさつをしない日」を設け、あいさつの意義を考える

あいさつを呼びかけてもなかなか向上しないのは、「なぜあいさつをしなければいけないのか？」という、あいさつの意義を知らない児童が多いのではという意見が代表委員会が出された。そこで、あいさつを全くしない日をつくれば、あいさつの大切さ、あいさつの良さに気付くだろうと考え、11月9日(火)をあいさつを全くしない日とし、朝からあいさつなしで過ごすこととした。実施後、児童から「あいさつをしないと、1日のスタートという感じがしない。」「何か変な感じがした。」「いつものくせで、思わずあいさつをしてしまった。」などと、あいさつをしない日についての感想やあいさつの良さが見つかることができた。

#### ● 「あいさつクスマッチ」の実施

児童からのアイデアにより、初めての試みとして、「あいさつのクスマッチ」を行った。11月14日から29日までの10日間の朝、児童会は、くつ箱で自分からあいさつができていない人に左のような「あいさつすばらしール」を配り、生活向上委員会は各クラスを回り、全員が大きな声であいさつできているクラスにパズルのピースを配った。それらの数をクラス毎に集計し、学年の優勝クラスにトロフィーを贈呈した。



高学年はあまり意欲的でない子もいるのではないかという心配があったが、高学年ほど対抗意識を燃やし意欲的に取り組む姿が見られた。

実施後、「あいさつクスマッチを実施して、クラス全体が盛り上がった」「大きな声であいさつができるようになった児童がふえてきた」「また実施してほしい」という声が寄せられた。



まだ、さわやかなあいさつができていない子もいるので、今後はマンネリ化にならないように、改善策を考えて、学期に1回程度継続的に実施していきたい。

#### ● さわやかなあいさつができていない児童の賞賛

立哨している教師や生活向上委員会の児童が、さわやかなあいさつができていない児童の名前を、給食の時間に定期的に放送で紹介している。教師や児童に賞賛され、認められることによって、全体にも好影響を及ぼしている。

### 成果

児童自身があいさつの大切さや意義を考える上で、「あいさつをしない日」の取り組みは、インパクトがあり効果的であった。実感を持って、あいさつの大切さや意義を感じ取ることができたので、少しずつあいさつの向上が見られるようになってきた。この気持ちが継続するように、手立てを工夫していきたい。